

EM

イーエム・ゼロ
Vol.7 April 2011

再始動



日本の復興には、もっとエンジニアの愛が必要だ。

Contents

2011年3月11日東日本大震災によせて2ページ

—被災地の中から

—被災地の外から

Agile JapanとEM ZEROの

—広がる—つながる—動き出す—4ページ

アジャイルジャパンとEM ZEROをふりかえて

今考えること7ページ

2011年3月11日 東日本大震災によせて 被災地の中から

2011年3月11日14時46分、東北地方太平洋沖地震が日本を襲いました。

被害に遭われた方たちには心からお見舞い申し上げます。

仙台と浦安から、被害に遭われた方たちの生の言葉を届けていただきました。

ここで取り上げた方たちは、ひと握りにすぎません。

ですが、被災者の生の声を知ること、一過性の支援や同情ではなく、本当の意味での支援、応援とは何なのか、私たちがすべきことは何なのかを考えるきっかけにさせていただけたらと思います。

仙台から from Sendai

IT企業社長 佐々木賢一氏

今回の大震災は、この地域に甚大な被害をもたらしました。しかしながら、我々IT企業は電気とネットさえ繋がっていれば活動ができます。実際、震災後の翌月曜日にはほとんどのIT企業が活動を再開していました。

大掛かりな設備を要しない我々IT業界は、本格的な立ち上がりも早いはず。地元のIT業界が企業活動復活の象徴になれるよう、業界みんなで頑張っています!詳しくは、仙台のIT企業ファンページをご覧ください。応援メッセージも待っています。

• Facebookファンページ

<http://www.facebook.com/sendai.it>

Profile プロフィール



トライポッドワークス株式会社
代表取締役社長

佐々木賢一

Kenichi SASAKI
Twitter:@kenichi_sasaki

仙台市生まれ。仙台に15年ぶりに戻ってきて10年。東京で仕事をしながら生活の拠点を仙台に置くスタイルをITの世界で実現すべく2005年末に起業。

トライポッドワークス社は、ハードウェアとソフトウェアの価値を融合し、シンプルで使いやすいITソリューションを提供する企業です。ITセキュリティ、先端技術開発、ITサービスが3本の事業の柱です。

- ブログ「仙台のITベンチャー日記」
<http://d.hatena.ne.jp/tripodworks-ceo/>
- トライポッドワークス株式会社
<http://www.tripodworks.co.jp/>

仙台から from Sendai

Agile Japan 2011 サテライト仙台主催

石川 愛氏・松村泰久氏

震災直後は、身内の安否、今後の生活のことで頭がいっぱいでした。会社に出勤しても、仕事どころではなく、地元ボランティア活動を手伝ってはみましたが、あまり力になれませんでした。もっと自分のできることはないかと考え、Agile Japan 2011 サテライト 仙台を行うことで、IT業界の方々が気持ちを切り替え、1日も早い復興に向けて進むきっかけになればと思いました。被災の悲しい事実は変えられませんが、未来は変えることができます。人が集まり、アイデアを出し合い、協力し合い、行動することで、復興に向けて前に進み出せるのではないかと考えています。Agile Japan 2011 サテライト 仙台を足がかりとして、今後もイベントを通じ、開発者の方々と一緒に東北を元気に盛り上げていけたらと思います。

Profile プロフィール



石川 愛

Megumi ISHIKAWA

東北デベロッパーズコミュニティ運営委員
Twitter : @lemur314

松村泰久

Yasubisa MATSUMURA

東北デベロッパーズコミュニティ運営委員
Twitter : @mattena31

- 東北デベロッパーズコミュニティ
<http://tohoku-dev.jp/>

浦安から from Urayasu

外資系ソフトウェア会社勤務

石澤史明氏

いま私は被災地から、東京都内の会社へ通っています。住まいは千葉県浦安市の埋め立て地です。地震の後、自宅へ戻る事ができたのは翌日の昼でした。自宅に近づくとその変わり果てた街並みに驚きました。家や電柱は傾き、道は陥没し、コンクリートの割れ目から土砂が吹き上げて水浸しです。マンホールは上に飛び出し、車やバイクは砂に埋まっています。とても普通に歩ける状態ではありません。

妻は最初の地震の後、すぐに近くの小学校へ子供を迎えに行っていました。何度も続く余震の中、どんなに辛い状態で帰ってきたか周りの惨状を見ればわかります。幸いにも家族全員無事でした。

会社で仕事をしていると、先日の地震の怖さをふと忘れることがあります。そんな日の夜は駅前の地盤沈下したビルを見に行きます。東北の被災者の方の頑張りを忘れないように。そして、あらためて妻と子供に思うのです。娘を守ってくれてありがとう。生きていてくれてありがとう。

Profile プロフィール



石澤史明

Fumiaki ISHIZAWA

外資系ソフトウェア会社のプリセールスSE。長野県生まれ。四方を山に囲まれた幼少期の反動で、海を見ながらの生活に憧れる。

被災地の外から

大きな被害を受けた東北地方とゆかりの深い方たちに思いを綴っていただきました。
その土地をよく知っているからこそその言葉をお伝えします。

仙台 Sendai

マインドマップ公認インストラクター 伊藤 賢氏

この度の地震、それに伴う津波などの被害を受けられた皆様には、心からお見舞いを申し上げます。また、亡くなられた方々には心よりご冥福をお祈りいたします。

私は、今回の巨大災害は、日本復興起点になりうると考えています。

海外のメディアが伝える今回の災害に對峙する日本人像は、私たち日本人が本来持っていた美しさと強さを垣間見せてくれています。実際に、メディアが伝える被災地の人たちの様子や、私が直接目にした整然と列を作って帰路に着く人々、それを支えようとする地元の店舗というのはあの混乱の中でも心強さを感じました。

もちろん、海外のメディアの報道には、政治的なものなど様々な思惑はあるでしょう。被災地では、実際には混乱に乗じて店舗などからの略奪なども起こっていると聞いています。東京でもあの日、整然と並んで歩いて自宅に向かう人の中に人を押しのける人間もいました。

それでもなお多くの日本人は、今回の震災で自らが持つ文化的な力を体感したのではないのでしょうか。だからこそ、その力を改めて自覚し、日本の復興を成していくことこそ、今回犠牲になった方に報いる最高の方法だと考えています。

Profile プロフィール



伊藤 賢

Ken ITO

仙台市出身。mindmap.jp (<http://mindmap.jp/>)

管理人。マインドマップ公認インストラクター。

震災後、「災害時のマインドマップの活用方法」などの記事をmindmap.jpに記載しています。また、当面、mindmap.jp主催口座の売上から10%を日本赤十字社の義援金とさせていただきます。

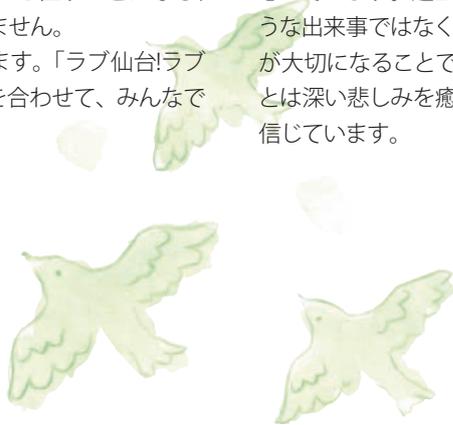
仙台 Sendai

USP研究所広報 鹿野恵子氏

不思議なことに宮城県出身者は自分の郷里が大好きで、はばかりず他県民にお国自慢をする県民性を有しています。私もその一人で、常に「ラブ仙台!」という郷土愛を心に秘めて東京で戦っている(つもりな)ので、今回の震災には言葉を失いました。被災された方には、もう少し、もう少し我慢してね、という言葉をかけることしかできません。

長い時間がかかるでしょうが、必ず東北は、再びあの美しい自然と豊かな文化で、人々を魅了する地として復興を果たすことでしょう。そのためには、私たち若い世代が、自分の意志で行動するしかありません。3.11以後、人々の価値観は変化しました。これをきっかけに「新しいニッポン」を私たちの世代がデザインし直すことになる、そんな気がしてやみません。

最後にもう1回言います。「ラブ仙台!ラブ宮城!ラブ東北!」。力を合わせて、みんなで頑張りましょう。



Profile プロフィール



鹿野恵子

Keiko KANO
Twitter:@keikoka

1978年仙台市生まれ。早稲田大学法学部卒。アスキーにて営業、流通業界誌編集記者を経て、現在ユニバーサル・シェル・プログラミング研究所広報担当。USP友の会事務局、USP出版発行人、USP MAGAZINE編集長。一貫して「社会とシステムの関係」を探索中。

・ユニバーサル・シェル・プログラミング研究所 <http://www.usp-lab.com/>

福島 Fukushima

秋葉原駅クリニック院長 大和田 潔氏

今回は未曾有の災害に遭われた方々に心からのお見舞いを申し上げます。

私は東京の下町の生まれですが、福島県立医科大学で医師にしてもらいました。福島は海岸線の美しい温暖な海側の浜通り、県庁所在地や郡山など新幹線の通っていて桃など果物も美味しい中通り、雪深くラーメンや日本酒も美味しい会津地方と豊かな県でした。住んでいる方々も素朴で、本当に心温まる場所でした。その場所が、地震、風評、原子力発電所の事故で大きな障害を受けているのは、心が痛みます。私はこれからが問題だと思っています。これから、日本が丸丸になって忍耐強くこの困難に立ち向かっていくことが大切だと思っています。過去のものとして忘れるような出来事ではなく、本当に長期間の努力が大切になることでしょう。でも、そのことは深い悲しみを癒してくれる源になると信じています。

Profile プロフィール



大和田 潔

Kiyoshi OWADA

東京都立両国高校卒業、福島県立医科大学卒業。東京医科歯科大学神経内科所属。秋葉原駅クリニック院長(現職)。サンケイエクスプレスに医療コラムを連載中。総合内科専門医、東京医科歯科大学臨床教授、頭痛専門医、医学博士。著書に『新版 頭痛』(新水社)、『知らずに飲んでた薬の中身』(祥伝社新書)など。

・秋葉原駅クリニック <http://www.ekic.jp/>

Agile Japan と EM ZERO の

広がる つながる 動き出す

Agile Japan は今年で3年目を迎えます。
 奇しくも EM ZERO も3年目を迎えました。
 ふたつのコンテンツの3年間とこれからの展望をまとめました。
 あなたの3年間は？
 そしてこれからは？

Agile Japan 実行委員会の様子



ポッペンディーク氏と黒岩氏のパネルの様子



コアは「自分で考える」



わざわざ大阪から西河さんがいらっしやいました

平鍋さんから新イベント協力をお願い

- ・「人のチカラを引き出すマネジメント手法」にフォーカスしたイベント
- ・平鍋さん、前田さん、熊谷さん、岡島さん、西河さん、野口がピークワンに集結



Agile Japan の目的決定！



野中先生とシャロウェイ氏のパネルの様子



「体験しよう！考えよう！行動」

- ・野中郁次郎先生講演
- ・アラン・シャロウェイ氏来日
- ・事例、ワークショップ
- ・何かを持ち帰ってもらう

～イベント開催レポート～
Agile Japan 2009
 次世代のリーダーをつくる

「次世代のリーダーをつくる」

- ・最初の一步
- ・上司とお客様とのペア割引
- ・メアリー・ポッペンディーク氏来日
- ・黒岩恵氏講演
- ・トヨタとアジャイルの再会
- ・InfoQ に英語レポート掲載

Agile Japan 2009

Agile Japan 2010

2010年2月19日 — **EM ZERO Vol.3.1 刊行**
 沢田マンションに学ぶ“いききとした”モノ作

2009年7月22日 — **EM 「要求開**

2009年4月22日

2009年2月某日 **編集長 野口が事故に遭**

2009年9月19日 —

Agile Japan 始動

2008年12月26日

2008年11月24日

EM ZERO Vol.2 刊行

スクラム導入事例から学ぶプラクティス適用の極意



2008年9月26日

EM ZERO Vol.1 刊行

Agile Conference 2008 レポート



2008年7月1日

EM ZERO Vol.0 発行

Agile Conference 2008 プレレポート

2008年6月 **マナスリンク設立**





Agile Japan 2018



EM ZERO 10周年号

「広がる、つながる、動き出す」

- ・公募セッション ・事例セッション
- ・サテライト開催 ・リンダ・ライジング氏来日
- ・當仲寛哲氏講演 ・学生ボランティア

Agile Japan 2011

2011年4月15日

EM ZERO Vol.7 刊行

2011年3月11日 東北地方太平洋沖地震

2011年2月4日

EM高専カンファレンス 創刊



2010年10月30日

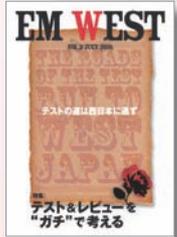
EM ZERO Vol.6 刊行

イベントレポート「XP祭り2010～アジャイル学園祭」開催

2010年7月23日

EM WEST Vol.2 刊行

テスト&レビューを“ガチ”で考える



2010年6月17日

EM WEST Vol.1 刊行

今、組込はどこへ向かっているのか？



2010年4月9、10日

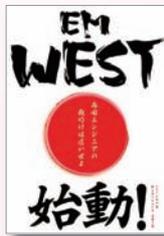
EM ZERO Vol.5「Agile UX 特集号」刊行



2010年5月5日

EM WEST Vol.0 創刊

EM WESTは如何にして生まれ、どこへ向かうのか？



EM ZERO Vol.3.2 刊行

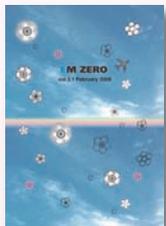
今、鳥一代があつくるしい！！



EM ZERO Vol.4 発行特集号」刊行



うorz



EM ZEROはたくさんの方々の 応援で成り立っています！



EM ZEROが生まれたのは2008年7月1日です。ZEROの名前のとおり0号から始めて3年が経ち、EM WESTやEM高専カンファレンスなどの拡張版も協力者の手によって作られました。

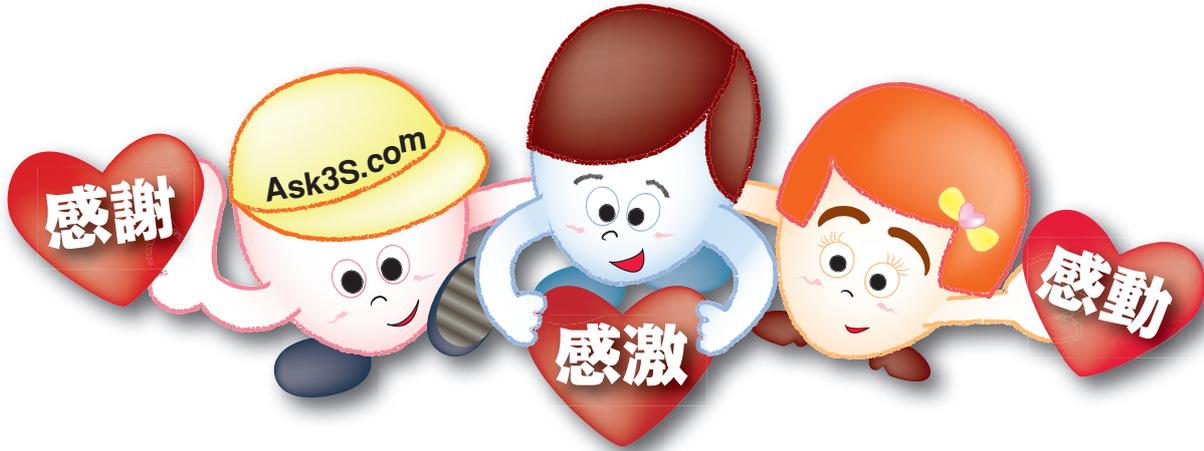
EM ZEROは有志の方々の行動する勇気によって成り立っています。執筆、編集、制作、印刷、配布など刊行に至る各段階に関わってくださった方々の強い思いなくして、ここまで継続することはできなかったと思います。

EM ZEROはこれからも新しい一歩踏み出す勇気を応援していきます。

リーダーはDoだけではなく Beだけではなく 常にBecomingな存在である

●アジャイルプロジェクトの成功を目指して

株式会社戦略スタッフ・サービスはアジャイル開発の実践経験（成功事例）とTPS（トヨタ生産方式・リーン）の豊富な知識にもとづき、アジャイル開発チームの指導（開発チーム、スクラム・マスター、プロダクト・オーナーのメンタリング）とプロジェクト運営・管理（管理者のメンタリング）の支援を通して、アジャイルプロジェクトを成功に導き、全プロジェクト関係者の皆様方に感謝・感激・感動を共有していただけることに努めます。



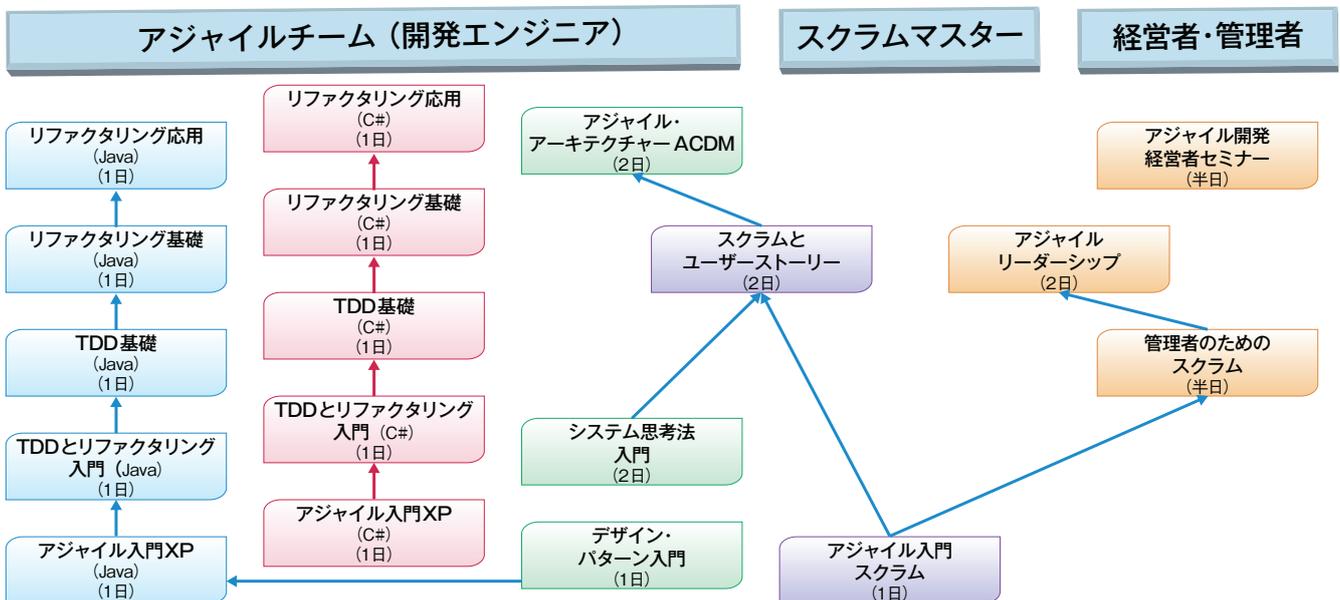
●アジャイル研修プログラムのご案内

はじめてアジャイル開発に取り組まれるエンジニア、管理者、経営者の皆様に体系的・実践的な研修プログラムをご提供いたしております。この研修プログラムは、企業様単位、開発チーム単位でご提供いたしております。

ご要望を伺った上、貴社に最適な研修プログラムをご提案いたしますので、遠慮なくご相談ください（最小催行単位：6名／クラス、最大：20名／クラス）。

お問い合わせは、TPS-agile_info@ask3s.net まで

アジャイル開発 研修コース体系



アジャイルジャパンとEM ZEROをふりかえって 今考えること

アジャイルジャパン実行委員/EM ZERO編集部

野口隆史

NOGUCHI Takafumi

アジャイルジャパン (Agile Japan) とEM ZEROは兄弟のような関係です。EM ZERO第0号が生まれたのが2008年の9月、アジャイルジャパンの第1回目の企画が始動したのが2008年の12月で、それからというものの刺激を与え合いながら成長を続けています。

アジャイルジャパンの始まりは、平鍋健児さんからの突然のお電話でした。まだイベントの目的も名前も決まっていませんでしたが、当時のメンバーでイベントをつくりあげたいということだけは決まっていた、そうした平鍋さんの想いにとても共感を得たことを覚えています。

EM ZEROも人で成り立つフリーペーパーです。共感できる関係があって、そこから生まれてくるであろう何かに期待しながら作っています。アジャイルジャパンも同じわくわく感を持たせてくれるイベントです。一緒に動きたい人を集めてからやることを考える、普通とは物事の進め方が違うかもしれませんが、そんなフリーペーパーやイベントがあってもいいことがちょっとずつ証明されてきていると思います。

最初は勢いでうまくいっても、2回目3回目と回を重ねるごとに続けることの難しさは上がっていきます。アジャイルジャパンもEM ZEROも3年目の今年が1つの正念場だと感じています。でも、本当にまたできるだろうかと立ち止まりそうになるときに、いつも仲間の存在が支えになってくれます。アジャイルジャパンとEM ZEROは実に多くの仲間に恵まれていると思います。ありがとうございます。

今回のアジャイルジャパンは、東日本を中心に日本全体が地震と津波、原発などによる大きな被害・影響を受け、開催できるのかどうかかわからない瞬間がありました。そのときに開催を後押ししてくれたのが仙台をはじめとするサテライト会場の仲間の熱意です。「広がる、つながる、動き出す」、これが今年のアジャイルジャパンのキャッチフレーズです。今こそ全国の仲間たちが力を合わせて動き出すときであることを確信しました。

この文章は、アジャイルジャパン開催の約1週間前に書いています。今後情勢に大きな変化が起こればイベントが開催できないかもしれない中で書いています。もしかしたら、当初の予定とは違った形で開催されているかもしれません。でも、人に意志がある限り、新しい日本の姿が描かれ、造られていくことは間違いありません。

震災はまだ終わっていません。そして、復興は長期戦です。1人でできることには限りがあります。一時の馬力より、地道に続けていく底力が必要です。アジャイルジャパン、そしてEM ZEROは、あなたが一歩を踏み出し、ともに長い道のりを歩む仲間を見つけることを応援します。

このたびの東北地方太平洋沖地震で被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

皆様の安全と一刻も早い復旧を心からお祈り申し上げます。

日本アイ・ビー・エム株式会社
ソフトウェア事業 Rational事業部

negau.org子ども支援プロジェクトが4月22日まで支援物資を募集しています。対象となっているのは文房具や、お菓子、本、絵本、おもちゃなどです(新品、未使用に限る)。

詳しくは<http://gift.negau.org/>まで。



秋葉原駅クリニック

総合内科、神経内科 頭痛外来、
メタボリック症候群、花粉症など

□診療時間
10:00~13:00、14:30~19:00
(土曜、日曜、祝祭日は休診)

アレルギーの
ご相談も
どうぞ!



03-5207-5805

東京都千代田区外神田1-18-19 秋葉原駅前ビル4F URL: <http://www.ekic.jp/>



リーダーはメンバーの「0.5歩先」を歩こう!

先に行かない。
離れ過ぎない。

柴田浩太郎 (gkohtaro@gmail.com)

©イラストレーター：メーパンさん

「全員参加型」の会議作り



Agile Japan 2011 の「ふりかえり」セッションの
ファシリテーター担当

対話をベースにした全員参加型の会議作りのお
手伝いをしています。

「参加者を活かす」ではなく、「参加者が生きる」
会議のワークショップの提供を始めました。

まずは Twitter でお気軽に。

高柳 謙 / ダイアログファシリテーター
@DiscoveryCoach

EM ZERO [イーエム・ゼロ] Vol.7
2011年4月15日発行

装丁・デザイン：ミヤムラナオミ
本文デザイン：前川直也
編集：EM ZERO編集部

発行元：株式会社マナスリンク
〒162-0012 東京都中野区本町4-48-17-803
<http://www.manaslink.com/>
お問い合わせ先：contact@manaslink.com

印刷所：昭栄印刷株式会社
<http://www.shoei-p.net/>

Copyright ManasLink
Printed in Japan

◎株式会社マナスリンクについて
株式会社マナスリンクはEM ZEROの運
営を目的として設立された会社です。マ
ナスとはサンスクリット語でマインドを意
味します。良いマインドを持った人々を
EM ZEROを通じて結び付け、良い人の
流れ良い情報の流れを作り出し、ソフト
ウェア業界を盛り上げていくお手伝いを
いたします。

◎EM ZERO配布のお願い
EM ZEROはイベントでの配布&EM
ZEROに共感して下さる方の草の根配
布を拠り所としています。よろしければ
本誌を何冊かお持ちいただき、周囲の方
に紹介していただけると嬉しく思います。

◎広告出稿のお願い
EM ZEROでは広告を掲載して下さる
クライアント様を募集しています。企業、
団体、個人は問いません。EM ZEROの
存続にご協力していただける方、広告効
果の可能性を感じていただける方がい
らっしゃいましたら、ぜひご相談させ
てください。

■EM ZERO広告のお申し込み
contact@manaslink.com

◎お取り寄せ
EM ZEROの最新号をお取り寄せいた
だくことができます。また、イベントや社
内での配布用には、送料をご負担いた
だければ承ります。部数に限りござい
ますので、お早めにお申し込みくださ
い。

■EM ZEROお取り寄せ
contact@manaslink.com

◎Twitter始めました!
EM ZEROがつぶやき始めました。

■EM ZEROのナカノヒト:@em_staff

◎EM WALL展示中!
ジュンク堂池袋本店様(<http://www.junkudo.co.jp/tenpo/shop-ikebukuro.html>)
の6Fコンピュータ売り場にて「EM WALL」
の展示を始めました。世界に1つしか
ない新しい壁メディアです。ぜひご覧
ください。

元気の源はここにあるぜ!

侍魂の塊、侍魂s

<http://katamaris.jp/>

Pray for Japan